



みらい経営グループ

あなたの繁栄が私たちの喜びです！

# 税理士法人みらい経営レポート

522号

今月の視点

## 人間力UPは全てに優先!! その手段として経営計画の策定を! ～持続可能な地域社会の一員としての会社づくり～

本年は平成最後の年であり、5月1日から新しい元号になります。平成の30年間はバブル崩壊後、目まぐるしい変化に日本経済はさらされました。一時期は「ジャパン アズ ナンバー1」としてうたわれてきましたが、今は世界先進国の中でも漸減するGDPが表すようになり順位を下げてきました。

生産性においては、OECD加盟国36カ国のうち20位に甘んじていることが日本経済の大変さを表しています。

私たちの日本経済は、平成の30年間にバブルの絶頂と転落、リーマンショックを味わい、そして後始末に追われて長いデフレの下で、少子・高齢化と人口減少と共に、中小企業数の減少という先行き暗い状況に置かれています。

以前は「メイド・イン・ジャパン」として家電製品・自動車が世界中に売られ、年功序列・終身雇用・生産現場のカイゼンと日本的経営がもてはやされました。

それでは、これからの日本、いや私たちの会社はどうなっていくのでしょうか？上記のように、「縮こまり現象」が現れ、会社は小さくなり顧客・仕事も減り、コストカットの美名の下で給与はどんどん減っていき希望のもてない将来が待ち受けているのでしょうか？

いや、それは絶対に違います。私たちの会社の本年の抱負は、私たちの常々の目標は「顧客企業のより良い仕組みづくりへのサポーター」であります。今まさにAI・IoTの時代と言われており、パソコンでどんなことでも検索できる時代の中においてこそ、「人間力は全てに優先！」を掲げ、高難度業務への挑戦であります。

また、全国で相続税申告は平成27年の増税前の2倍、10万人となっており、まさに相続時代の呈況を示しています。私たちはブームだからではなく、相続とは事業者にとっての事業承継、円滑な承継のための遺言書、死後事務委任、家族信託など幅広い見識が求められています。事業者の後継ぎが相対的に減少している今、顧客の大きなニーズが底辺にあることを認識する必要があります。

### みらい経営グループ経営計画発表会

みらい経営グループの経営計画を発表します。

経営計画発表会で社員には行動指針を、お客様には弊社の姿勢を示します！

弊社の経営計画発表会にご参加いただけたら幸いです。

開催日時:1月25日(金)15時30分～

会場:みらい経営3Fセミナールーム

有志による異業種交流会(5,000円)※詳細は別紙をご覧ください

そして、新事業承継税制の新特例の適用を受けた会社は 5 年にわたって毎年事業承継に関する報告書を都道府県庁に、届出書を税務署に提出する義務が生じ、それ以降も税負担の免除を受け続けるかぎり、3 年ごとに届出書を提出しなければならない。もし報告を怠れば税負担の免除は取り消され、本来納めるべきだった膨大な税額に加えて利子税なども合わせて一括納付することになります。当然、その際には支援機関として承継計画に関わった会計事務所も手続き上の説明責任が取られます。今後何十年にわたって提出義務を課され、さらに 3 代目も税優遇を適用すれば、孫の代になっても事務所には顧客先に対する説明責任が生じます。事務所の職員なども代替わりしていくことで、ミスは許されない課税リスクを常に抱えることについて、会計事務所としても重く捉える必要があります。

つまり、業績好調な法人顧客の会計事務所の選別が始まる時代であります。「AI」での、世間での人手不足でのニーズ、企業数の減少、異分野からの参入による競争激化などで事務所の選別は更に続くでしょう。

あるいは、OECD36 カ国のうち日本は 20 位という生産性の低さ、有給取得率が世界で最低など「働き方改革」も喫緊の課題であります。

それでは我が「みらいグループ」の精神は何か！それは、人間力って何か？であります。その一つとして、ES（社員満足度）が良く言われます。

私どものスタッフの仕事への人生への思いが我が社として応えているのか？であります。社員と我が社の仕事観、人生観がほぼ一致しているか、であります。

もっと言えば「世のため、人のため、ちょっぴり自分のため」であります。縁あって一つの会社の下で働いている人たち全員が「在職して良かった！」といわれる会社にするのです。一日のうち、寝る時間を除けば、半分以上の時間を仕事で使っています。その時間が充実してこそ、人生も充実したものになります。それがあからこそ人間力が発揮されます。それは、スキルや技術と違って、今すぐ自身の気持ちでありますから、その気になればすぐその気持ちになれます。その気持ち認識を持って行動することが、「人間力」であります。

一歩突きつめると、我がグループの経営理念である「人にぬくもり」であります。では、「ぬくもり」とは何か？「中庸の精神」「たらいの水（二宮尊徳）」などです。色々な働き方、考え方を受け入れる。その中で経営（人生経営含む）に安心と希望を求め、仕事を通じて安心と希望を得られることです。

更にいえば、大切な人生時間を充実するには、退社時間あります。今年末には 21 時、来年末には 20 時を目指しましょう。そして、2 つ目として、有休取得率を 70%にしましょう。連続休暇を取りましょう。

具体的には 3 つあります。1 つは人を採用します。新卒の学生採用に更に注力します。情報の共有業務（製販分離）には人財が必要です。45 日決算、月次決算、経営会議などを通じてその根底は経営計画の策定です。プロの補助者と共に外勤者はお客様の相談と提案、更に経営会議の議長となります。いわば、個別対応（経営コンサル）業務であり、一般会社でいうところの社長室・企画室のような立場です。

2 つ目は、お客様を増やします。これは戸別営業・飛び込み営業ではありません。私たちは強みの財務を通じたより多くの資料づくり、サービスを提供すれば私たちの仕事が感謝され、それが自然と紹介につながります。私たちの個別対応の資料、相談、提案は、一般的に 70%赤字法人といわれている中で、中小企業の社長様に自信を、社員さんに安心と希望を持っていただけます。それは感謝となり、私たちの新商品はお客様の利益アップにつながります。そのことは、業績アップの成功体験として顧客紹介につながります。そして、紹介者には「人間力を発揮」して感謝しましょう。

3 つ目は、我がグループは持続可能性を実現するために、少しずつ変わります。1 年で 5%アップすれば 7 年で 1.4 倍になります。継続は力です。

この経営計画書は私たちに縁あって係わっていただける皆様方への、グループとしての考え方です。ご家族と皆様方の人生に対しての期待と責任を一身に感じながら策定しています。

より良い人生経営を目指して、中庸の精神、朝令暮改もいとわず調整しながら経営します。この計画書は、大きな柱であります。色々な働き方・色々な考え方を受容する気持ちも大切にしながら策定してあります。

私は仕事を通じて自己の成長と考えています。でも個人自身で大切にすることは、趣味・家庭・社会貢献など様々です。要はバランス感覚です。しかしながら、当社は営利団体ですので永続企業として利益の大切さは認識しています。YES or NOではなくその中間もあっていいのです。老若男女、使う時間も様々の中で限られた人生、時間を有意義に使いましよう、とすると生産性の向上、人間としての成長が大切です。

つまり、他人と比較する相対でなく、過去の自分と今の自分とを比べる「自分絶対」(朝日新聞)だと思えます。自分自身の人生は自分自身で大切にします。

誤解してほしくないのは、「もっとがんばれ!」と言っているわけではありません。自身の人生のために、何をやって充実させられるか?です。誤解を恐れずにいえば、成長したくない・なるべく少ない時間で働きたい、それでも我が社の社員として重要です。成長したくない、現状を維持したい。それでも、22歳で頭脳や筋肉は劣化し始めます。1~2%成長してこそ、私たちの頭脳や肉体は現状維持を保つことができます。よって、ぬくもりと人間力、そしてを大切にしてくれたら、我がグループにとって重要な社員です。

自分経営、会社経営つまりマネジメントの大切さと情熱を持って言い続け、執念深く実践しましょう。明るい笑顔の挨拶で、少しずつ、長くです。

「1人の100歩より100人の1歩づつ(トヨタ)」、そして「情熱ある執念深さ(日本電産)」で私たちみらい経営グループは本年も、会社経営・人生経営を大切にしながら前進します。ご指導・ご協力の程、ご意見をいただきたく宜しく願いいたします。

そして、3つのお願いです。少しだけ、考え方を・やり方を・仕事を変えてみましょう。それを当社の経営計画に自身の目標としましょう。その根底は「人間力は全てに優先!」です。

様々な人々が多様な時間帯でいきいきと自身の物心両面の成長を目指すグループ企業。そんなグループ企業でありたい。

以上、内容に関するお問い合わせは、弊法人 石川までお問い合わせください。

平成31年1月吉日

石川 光男・榊原 睦

## 【将軍の日(中期経営計画立案セミナー)】

### 自分のつくりたい会社を紙で書く1日です!!

自分のつくりたい会社を紙に書くことで目標が定まります。

その目標に対して明日から何をしないといけないのかが見えてきます。

そして、経営に対する意識が変わります。

経営者の意識が変われば、行動が変わる

行動が変われば、社員の意識が変わる

社員の意識が変われば、会社が変わる

開催日時:平成31年1月12日(土)10:00~18:00(昼食代)

1月23日(水)10:00~18:00(昼食代)

お問い合わせは052-651-6000 担当 武田まで

**今後のセミナー** ※各セミナー、前日までにFAXにてお申込みをお願いします。

1. 1月12日(土) 家族信託・相続 無料セミナー

『 家族信託・相続の基本セミナー(無料個別相談会も開催) 』

講師 税理士 石川光男・司法書士 水野文俊 氏

時間 10:00~11:40(受付開始9:30~) 会費 無料

場所 熱田区船方コミュニティセンター202号会議室

※席には限りがございますので、事前予約となっております。

※セミナー終了後、無料個別相談会を開催いたします。

2. 1月12日(土) 将軍の日 ~第60回~

『 将軍の日~中期経営計画立案セミナー』

時間 10:00~18:00

会費 1社につき54,000円 (昼食代込)

※1名追加毎に3,000円

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

※お申込みは1週間前までをお願いいたします。

3. 1月16日(水) 平川忠雄DVDセミナー

『 平成31年度税制改正の概要 』

講師 柴田 和浩 時間 18:00~19:00

会費 会員 500円 その他 1,000円

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

4. 1月23日(水) 将軍の日 ~第61回~

『 将軍の日~中期経営計画立案セミナー』

時間 10:00~18:00

会費 1社につき54,000円 (昼食代込)

※1名追加毎に3,000円

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

※お申込みは1週間前までをお願いいたします。

5. 1月25日(金) 税理士法人みらい経営グループ 経営計画発表会

『みらい経営グループ 経営計画発表会』

時間 15:30~17:30

会費 無料

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

6. 1月28日(月) 相続セミナー

『 争族事例あれこれと解決策 ~「相続」が「争族」にならないために~ 』

講師 山口 統平 氏(弁護士) 時間 16:00~18:00

会費 1,000円

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

**熱田・港倫理法人会のセミナー** お問い合わせはみらい経営まで TEL 651-6000

1. 1月10日(木) 第658回 経営者モーニングセミナー  
テーマ 「ピンチこそチャンス」  
講師 日比野 良太郎 氏  
時間 AM 6:30 ~ AM 7:30 会費 無料  
場所 金山ゼミナールプラザ
2. 1月17日(木) 第659回 経営者モーニングセミナー  
テーマ 「苦難の捉え方」  
講師 松本 光司 氏  
時間 AM 6:30 ~ AM 7:30 会費 無料  
場所 金山ゼミナールプラザ
3. 1月24日(木) 第660回 経営者モーニングセミナー  
テーマ 「あほな奴ほど成功する！」  
講師 中村 文也 氏  
時間 AM 6:30 ~ AM 7:30 会費 無料  
場所 金山ゼミナールプラザ
4. 1月31日(木) 第661回 経営者モーニングセミナー  
テーマ 「会員スピーチ&歴代会長パネルディスカッション」  
時間 AM 6:30 ~ AM 7:30 会費 無料  
場所 金山ゼミナールプラザ

※倫理法人会セミナー、事前申込みは必要ありません。

受付で「石川光男の紹介です」とお伝えください。

※会場・・・金山ゼミナールプラザ 〒460-0024 名古屋市中区正木 3-7-15  
TEL 052-331-6411

**1月の税務と労務**

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| ・ 11月の決算法人の確定申告、納税 | 期限( 1月31日) |
| ・ 5月の決算法人の中間申告、納税  | 期限( 1月31日) |
| ・ 5月の決算法人の消費税の中間申告 | 期限( 1月31日) |
| ・ 12月分源泉所得税納付      | 期限( 1月10日) |

税理士法人みらい経営 名古屋オフィス (発行元)

税理士・中小企業診断士 社会保険労務士・行政書士 石川 光 男  
〒456-0051 名古屋市熱田区四番二丁目14番34号  
TEL 052 (651) 6000 FAX 052 (652) 0066  
[ishikawa@ishikawakk.or.jp](mailto:ishikawa@ishikawakk.or.jp)

半田オフィス

税理士 榊原 睦  
〒475-0928 半田市桐ヶ丘一丁目89番  
TEL 0569 (26) 1566 FAX 0569 (26) 1569  
[mbara623@k6.dion.ne.jp](mailto:mbara623@k6.dion.ne.jp)

その後、救急車とパトカーが到着し、被害者の方は病院に搬送されるとともに、私は現場検証に立ち会い、後日詳しく事情聴取を受けることになりました。その日は、警察の方に「すぐに病院に行ったほうがいい」と言われ、すぐに病院に向かいました。病院に着くと、すぐ被害者のご家族に謝罪と安否の確認をした後、「今は手術を行っていて、とても危険な状態だ」と説明されました。とにかく何とか助かって欲しいと心から願いました。

しかし、しばらくして、被害者の方が亡くなったという知らせを聞かされ、頭の中が一瞬、真っ白になりました。翌日、親と一緒に被害者のご自宅へお伺いし、謝罪とお焼香をさせてもらったり、通夜、葬儀にも参加させてもらいました。

被害者のご遺族の自宅にお伺いした際や葬儀に参加した際、被害者の方のお嬢様がずっと泣かれていたこと、ご遺族の方の顔や言葉を聞き、「自分は人の命を奪った」と

取り返しのつかない事をしてしまった」という罪悪感でいっぱいになりました。

その後も月命日などで被害者ご遺族の自宅に謝罪とお焼香にお伺いしていましたが、自分は親の後で謝罪をしたり、ご遺族の方に電話をしてもらうなど親の後に隠れるような事をしてしまいました。

その後、裁判が行われ、私は過失運転致死罪で禁錮2年の実刑判決を受け、私は市原刑務所で日々反省の時間を過ごしていました。私は受刑生活において、色々なことを学びました。私が命を奪ってしまったせいで、被害者のご遺族の方や周りの人達の時間や、将来の希望も奪ってしまったこと、心に深い悲しみとショックを与えてしまったこと、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、私はまだきちんとした謝罪ができていません。心から反省し、私が犯した罪ときちんと向き合い、二度と同じ過ちを犯さな

いことを心に誓い、誠意を尽くした謝罪をし、行動していきます。

どんなことをしても時間は戻りませんし、亡くなった人を生き返らせることもできません。だからこそ、私はその真実から逃げることなく、きちんと向き合い背負って、一日を大切に過ごし、生涯を懸けて真の償いとは何かを考えていこうと思います。

(注)東京交通安全協会発行「贖いの日々」  
—交通事故はもうたくさん—  
から転載したものです。



あがな  
贖いの日々

犯した罪と向き合い

H・O 24歳 鳶 職

平成27年のある月、何も関係ない女性の命を奪うという人として一番してはいけないことをしてしまいました。

私は会社が隣町にあったため、毎日車で通勤をしていました。その日も一日の作業が終わり、車で会社から帰宅する途中でした。この日はいつもの時間帯より早く仕事を終え、いつも走り慣れた道を運転している時でした。

ふと、たばこが吸いたくなり、いつも置いてある場所を手探りで探しました。前方の信号機が青色を表示しているのを一旦確認した後、「この信号が赤色に変わり停まる事はそうないから、今回も停まる事はないだろう」と思い込み、助手席に目を移し、たばこをライターを靴から探し出し、たばこに火を

つけるなどして脇見をしながら運転していました。

しかし、前方の信号が赤色に変わっていたことに気づかず、たばこに火をつけ、前方を確認した際、横断歩行している人の姿を発見し、「やばい」と思い、急いでブレーキを踏みました。

しかし、間に合わず、「ドンッ」という鈍い音とともに、歩行者を車の前部に衝突させ、路上に転倒させてしまったのです。「とんでもないことをしてしまった」と思い、すぐに車から降りて被害者の女性のもとに駆け寄り、呼び掛けました。すると、返事があったので、急いで救急車を手配するとともに、警察の方にも「人を撥ねてしまったのですが」と通報をしました。

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所二代目理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこゝとばを掲載します。

知り合いのK子さんが、書道を始めた。しばらくたってから、今まで習ったところを清書して出すようにいわれた。そこで清書を二枚書いて持っていったら、先生は即座にこう言った。

「同じ字の清書を二枚出すということはありません。墨がうすくても、間違っている、まずくできあがって、これ一枚が自分の全力と違って、しっかり書かねばなりません。それが清書というものです。しくじったらやり直せばよいというのなら、しのない気持ちで書く、何枚書いても、清書にならないのです。だから、私に出すときにはこれ一枚、書き直しはしないと心を決めて書いたものを持って来てください」

K子さんは、この時、人生のある重大なものに触れたように、心が引き締まった思いでした、と後に私に話ってくれた。

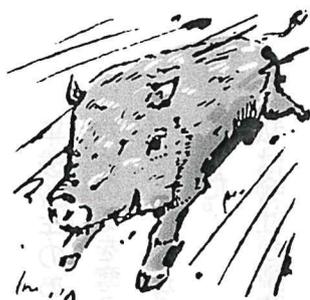
絵でも、展覧会に出すのに、二枚同じようなものを出品して、さあどちらか選んでくださいというわけにはゆかない。大勢の前で演奏したり、歌ったりするのに、二度ずつやって、皆さん、どちらが良いと思いますか、などといったら、聴衆は怒ってしまうだろう。

芝居やバレエなどでもまったく同じことで、練習や稽

1月のテーマ | 全力を尽くす

## 人生は一本勝負

丸山竹秋



古の時は、何回やり直したっていいだろうと思われるかもしれないが、一々については、その時々を全力を尽くしてやらなければならぬ。力を入れ、心を込めて、公演と同じ時のようにやろうと努めなければ、真の練磨にはならないのである。心に余裕を持つことは大切だが、何度でもいいかげんにやってよいということでは、技は磨かれなないと、その道の達人たちは一様に説いている。

試合の苦しいコースに入って、どうも今、具合が悪いからもう一回やり直してくださいよと、自分だけの勝手をいうわけにはいかぬのと同じように、自分の境遇が悪いからといって、また裕福な人の子に生まれ変わって人生をやり直すわけにはいかないのである。

この意味で、しようと思いついたことをぐずぐず躊躇して延ばすことは、幸福を失う大きな原因となる。お花でも裁縫でも、習おうと思ったら、その時にさっさと習うようにしなければならぬ。

まあまあと思っていると、いつまで経っても、習うことはできない。お世話になつていてる人を訪問し、お礼をしようと思いつく。しかしまあ、そのうちにと、ぐずぐずしていると、いつまで経っても出かけられず、知らぬうちに先方は感情を害していることもある。

人生は一本勝負である。待たなすである。明日では遅すぎるのである。新しい年を迎えて、今年こそ私たちは、その時々をフルに生かし、充実させてゆこう。

（著書『幸福の決め手』より）